

英語科学習指導案

日時 平成16年9月8日(水)5校時

学級 3年B組(男19名 女16名 計35名)

指導者 八重樫孝俊

1、単元名 NEW HORIZON English Course BOOK3
Unit 4 An American Rakugo-ka

2、単元について

(1)教材観

本科は“疑問詞 + 不定詞”や、“It is + 形容詞 + for + 人 + 不定詞”を用いて、日米の文化の違いに触れながら、不定詞の特殊な表現を扱う。

“疑問詞 + 不定詞”は実際に使用できる便利な表現であり、また国際化社会でも大切な表現であるのでしっかり定着させたい。

“It is + 形容詞 + for + 人 + 不定詞”については、英語独特の表現であり、既習事項である主語として動名詞を使った文にとの違いにも触れ、この文型の意義を明確にして、その機能や用法を理解させながら定着させたい。

(2)生徒観

“to + 動詞の原形”は、2学年(BOOK2)で未来形、副詞的用法、名詞的用法、have + to + 動詞の原形を、3学年(BOOK3)でwant + 人 + to + 動詞の原形、形容詞的用法、原因・理由を学習している。

これらの既習事項の多様な用法について、未だに戸惑う傾向にあるので、継続的な指導を今後もあわせて徹底していきながら定着させたい。

(3)指導目標

“疑問詞 + 不定詞”を用いて、自分のことや、周囲の状況を説明したり、説明を聞いて状況を理解することができる。

“It is + 形容詞 + for + 人 + 不定詞”を用いて、相手に自分のことを伝えたり、相手のことを聞いて理解することができる。

“It is + 形容詞 + for + 人 + 不定詞”を用いた文を読んで理解することができる。

日米の食事の場面における文化の違いや、言語表現の食い違いを理解することができる。

(4) 単元の評価規準 (別紙)

(5) 指導計画

疑問詞 + 不定詞 1 時間
 It is + 形容詞 + for + 人 + 不定詞 1 時間 (本時)
 読解 (日米の食事の場面における文化の違い) 1 時間
 読解 (言語表現の食い違い) 1 時間
 まとめ 1 時間

3、本時について

(1) 本時の目標

“ It is + 形容詞 + for + 人 + 不定詞 ” の文の形・意味・用法を理解することができる。
 “ It is + 形容詞 + for + 人 + 不定詞 ” を用いて自己意できることを伝えたり、相手のことを聞いて理解することができる。

(2) 本時の評価規準と具体的評価規準

観点	評価規準	具体的評価規準 おおむね満足とできると判断される状況 (B)	努力を要する 生徒の指導の 手立て
表現の能力	It's for ---- to ~ を用いて相手に伝えたい内容を書くことができる。	評価 1 語順を正しく文を書くことができる。	支援 1 机間巡視をし、個別指導をする。
理解の能力	It's for ---- to ~ の文を聞いて意味がわかる。	評価 2 対話の内容から、相手の伝えたいことを理解することができる。	支援 2 相手が理解できるように伝えることを指示する。 ヒントを与える。

(3) 展開

段階	学内容	学習活動	指導上の留意点 ()は評価の方法	
導入 (7)	1 挨拶 2 Warm-up	明るく、英語環境を作れるように挨拶する。 既習の基本文型を書く。 ・ I know how to get to the station. ・ I will show you what to see in London. 教科書で前時の学習課題を確認する。	生徒の状況を観察しながら。 個への配慮をしながら。	
展開 (42)	3 学習課題把握 4 学習課題確認 5 コミュニケーション活動 6 教科書読解	・ It is easy for Junya to play the piano. 紹介された内容をつかむ。 <table border="1" data-bbox="564 831 951 880"> <tr> <td>It is --- for . . . to ~</td> </tr> </table> 文型を確認する。 自分にとって簡単なこと、困難なことを表現する。 相手のことを尋ねて情報を集める。 コミュニケーション活動で得た情報を発表する。 教師の質問に答える。 本文中の It is --- for . . . to ~ を確認する。	It is --- for . . . to ~	身近な話題から基本文型をつかませる。 巡視しながら個への配慮につとめる。 評価1 (机間巡視) 語順を正しく文を書くことができる。 支援1 個別指導 評価2 (観察) 対話の内容から、相手の伝えたいことを理解することができる。 支援2 相手が理解できるように伝えることを指示する。 ヒントを与える。
It is --- for . . . to ~				
終末 (1)	7 次時の学習内容確認 8 挨拶	課題と次時の内容を確認する。 挨拶する。	発表が全員に伝わるように配慮する。	

Unit 4 Dialog

Class No. Name

Activity
